

# アーカイブス 通信

No.8

## 新着図書

新着図書の中からおすすめをご紹介します。

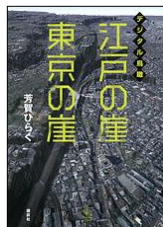


### 明治神宮—「伝統」を創った大プロジェクト

今泉宜子/新潮社 2013年2月発行

70万㎡にも及ぶ鎮守の森、明治神宮は鎮座からまもなく100年を数えます。しかしその歴史は、全国で八万社を超える神社の伝統と比較すると新しいものです。「近代日本を象徴する明治天皇の神社」とはいかにあるべきか—西洋的近代知と伝統のせめぎあいの中、独自の答えを見出そうと悩みぬいた、造営者たちの挑戦が記された1冊です。

人の手によって生まれた森！



### デジタル鳥瞰 江戸の崖 東京の崖

芳賀ひらく/講談社 2012年8月発行

東京は、実は崖密集地帯であることをご存知ですか。オフィスビルやマンションなどで密かに隠れている崖を含めれば、東京には膨大な数の崖が潜んでいます。本書は、CG地図などを駆使して作られた、東京の崖の鳥瞰図とともに崖について深く掘り下げて紹介しています。



### 大人の樹木学

石井誠治/洋泉社 2013年10月発行

毎日の近所の散歩や山や公園で見る木々は、環境に応じて、それぞれ違った性質を持っています。樹木の種類だけでなく、木々の生き方に注目すると、なぜそこにその木があるのか、なぜそんな形をしているのかが見えてきます。樹木の“なぜ？”がわかり、毎日の散歩が楽しくなる1冊です。



### 日本人は植物をどう利用してきたか

中西弘樹/岩波ジュニア新書 2012年6月発行

古くから、人々は世界のどこでも、地域の植物を食材だけではなく、その特徴を活かす工夫をして広く利用してきたことはよく知られています。自然と親しみ、草木を暮らしに活かす工夫と、細工に器用な日本人の技にも驚かされます。本書から、日本人が自然に親しみ、植物を利用してきた「植物と暮らしの文化」を学ぶことができます。

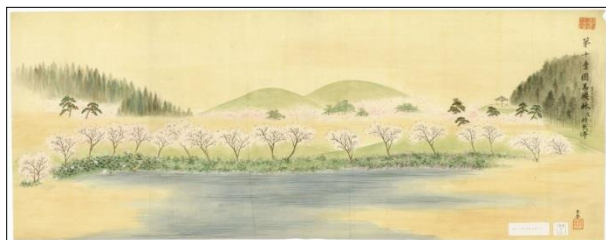
## 所蔵資料展示

所蔵している貴重な資料の一部を特別公開しています。

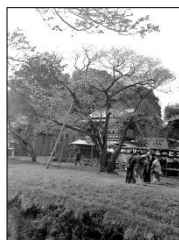
### 櫻と公園 平成26年 3月1日(土) ~ 5月1日(木)

桜は昔から人々に愛され続け、花が咲く季節になると花見が催され、春を代表する風物詩となっています。桜の名所にはたくさんの人が訪れ、遊観地、そして現在の公園へとなった場所も少なくありません。

花が散る様子でさえ、風情があるとされる日本人にとって特別な桜。これらの桜や公園について書かれた書籍、写真、図面、錦絵等、通常直接見ることができない資料を特別公開しています。皆様のご来館お待ちしております。



第十壹圖萬櫻林及時式亭(日比谷公園)  
明治34年(1901年)



名勝小金井桜  
昭和6年(1931年)



池畔の桜 井の頭池 井の頭恩賜公園  
昭和45年(1970年)

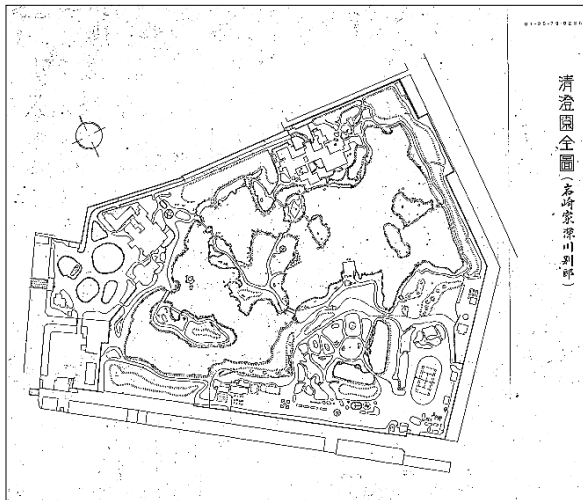
## 『清澄園全図（岩崎家深川別邸）』

東京都公園協会は、平成26年2月25日に設立60周年を迎えました。設立に大きく関わった人物に井下清がいます。井下清は、三菱財閥3代目の岩崎久弥と深い親交がありました。

清澄庭園は、明治13年に「深川親睦園」として竣工しました。その後も造園工事は進められ、明治を代表する庭園が完成しました。

井下清が東京市に在職していた大正12年、関東大震災で大きな被害を受けましたが、清澄庭園は避難場所としての役割を果たし、多数の人命を救いました。岩崎久弥は、こうした防災機能を重視し、翌大正13年破損の少なかった東側半分（現庭園部分）を公園用地として東京市に寄付しました。東京市は整備を行い昭和7年公開に至ります。

本図の詳細は明確ではありませんが、震災前の大正11年頃のものとして推定されます。



## レファレンス事例

こんなご相談にも乗っています。お気軽におたずね下さい。

### Q.井の頭恩賜公園の池がきれいだったことがわかる資料はないか。

A.大正10年から昭和8年まで井の頭池の東側の一部を

天然池プールとして利用するほど、池の水はきれいでした。

天然池プールとして使われていた頃の写真や絵はがきを所蔵しています。

紹介図書：前島康彦『井の頭公園』（東京都公園協会/1980年）

紹介資料：写真『井の頭公園池尻水泳場』

絵葉書『東京市井の頭公園水泳場』



### Q.和田堀公園にウォーターシュートがあったらしいが、いつ頃作られたのか知りたい。

A.和田堀公園の地はかつて民間遊園地・大宮八幡園でした。

真珠湾攻撃の1年前の昭和15年、鉄材の使用が禁じられる中、

木製のウォーターシュートが建造されました。

その後、戦乱が激しくなり、昭和19年に取り壊されました。

紹介図書：中藤保則『遊園地の文化史』（自由現代社/1984年）



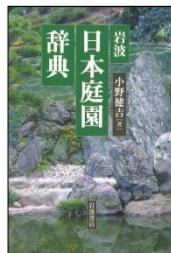
### Q.冬に松に巻いている葉は何というもので、何のためにしているのか知りたい。

A.菰（こも）巻きというものです。枯葉の多い地上で冬を越すために松の枝葉から

下りてくる害虫のマツカレハの幼虫などの習性を利用した伝統的な駆除方法

です。

紹介図書：小野健吉『岩波 日本庭園辞典』（岩波書店/2004年）



■開館時間 : 9:00～17:00

■休館日 : 日曜・祝日・年末年始(12月29日～1月3日)

■複写 : 有料

■資料検索 : インターネットからも検索可能

<http://www.tokyo-park.or.jp/college/archives/>

グリーンアーカイブス 検索

■データ貸出：図面・写真・絵はがき等の資料の画像データ貸出についての申請方法は図書館職員までお問合せください

〒100-0012 千代田区日比谷公園1-5 緑と水の市民カレッジ2階

TEL03-5532-1306

・東京外丸ノ内線、千代田線、日比谷線「霞ヶ関」駅下車 徒歩3分

・都営地下鉄三田線「内幸町」駅下車 徒歩5分

・JR山手線「有楽町」駅下車 徒歩15分